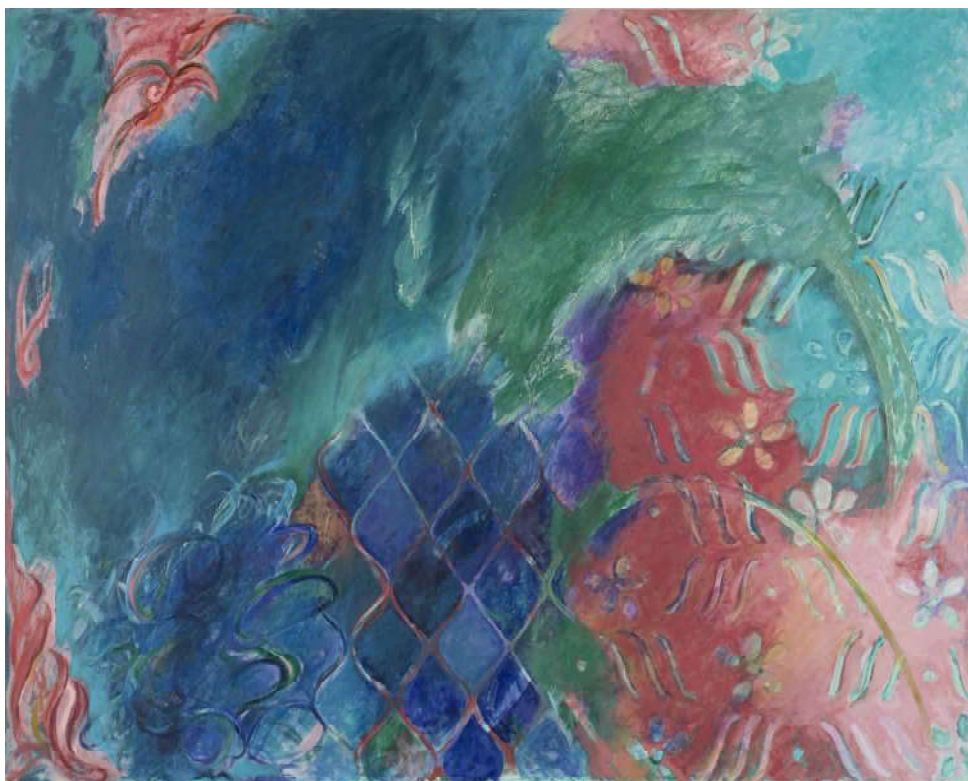


- ▶長野県ゆかりの作家の絵画作品が一堂に会する展覧会
- ▶戦後50年を絵画で振り返る

# 信州から考える 絵画表現の50年



辰野登恵子《WORK 82-P-35》1982年 長野県立美術館

Shinshu  
Artists' Perspectives:  
Fifty Years of Painting

描くことをやめない。

2025年2月1日(土)～4月6日(日)

長野県立美術館 展示室1・2・3

 長野県立美術館  
Nagano Prefectural Art Museum

信州から考える  
絵画表現の 50 年

長野県立美術館では 2025 年 2 月 1 日（土）～ 4 月 6 日（日）まで、企画展「**信州から考える 絵画表現の 50 年**」を開催します。

▶開催概要

第二次世界大戦が終わりを迎えた 1945 年、戦後の荒廃と混乱の中、国土の復興と産業の再編が進められた時代から、甚大な被害をもたらした阪神・淡路大震災が起こり、新たな災害の時代の幕開けを印象付けた 1995 年までの 50 年間。本展では、そのような時代に制作された、長野県ゆかりの作家 18 名の絵画作品 63 点を紹介します。

本展は 2 章で構成され、第 1 章で取り上げる 1945 年から 70 年代前半は、終戦後まもなく民主的な改革が進められ、復興を目指した高度経済成長の時代。この時代には、戦前から続く既存の美術団体に属さずに、無審査の公募展やギャラリーを発表の場とし、また、世界のアートシーンの中心地となったアメリカへ渡った作家たちの活躍が見られます。その後、絵画作品の制作が停滞した 70 年代を経て、第 2 章として焦点をあてる 70 年代後半から 1995 年では、バブル経済による好景気や文化産業の勃興などによって、絵画は復権を果たしました。この時代、特に、絵画の純粋化を意図するフォーマリズムに影響を受けた作家たちの活躍が見られ、その活動は、大都市から地方へと広がっていきました。

大戦という惨事の終わりと、災害の時代の始まりに挟まれた 50 年間に、絵画という基本的なメディアが社会と共に歩む姿、時代に影響されながらも描くことをやめない作家の姿が見えてきます。信州から描く、戦後絵画史の一樣相をご覧ください。



松澤春《ブサイの意味—ハイゼンベルクの宇宙方程式に寄せて》  
1960 年 長野県立美術館



小松良和《Land scape' 84 気流の音》1984 年 個人蔵（長野県立美術館寄託）

## ▶ みどころ

### 1 長野県ゆかりの画家たちの絵画作品を一堂に

2021年リニューアルオープンを迎えた長野県立美術館では、前身の信濃美術館時代から、県内唯一の県立美術館の役割として、長野県ゆかりの作家や地域に関連した事柄をテーマとした展覧会を実施してきました。展覧会として取り上げる範囲は、明治以降の近現代美術を主としていますが、当館コレクションは戦前に制作された作品が大多数を占めているため、戦後に制作された作品の収集にも努め、近代から現代へ続く体系的なコレクションの構築を目指しているところです。そこでこの機会に改めて戦後に注目し、県ゆかりの作家の絵画作品から、戦後50年間に表出した「絵画」という基本的なメディアの変遷をみようと考えました。

草間彌生、池田満寿夫から辰野登恵子など、県ゆかりの作家18名による作品63点を一堂に会してご観いただきます。

### 2 戦後50年という時代を振り返る

本展では、1945年から1970年代前半までを第1章とし、既存の団体、社会などの枠組みの外側を目指した作家たちを紹介し、終戦後まもなく民主的な改革が進められ、復興を目指した高度経済成長の時代、1年余りのうちに多くの美術団体が再結成され、美術界全体が復活を果たしたように見える一方、戦前からの既存美術団体に属さず、読売新聞社主催の日本アンデパンダン展やギャラリーを中心に活動する、いわゆる「アンデパンダン作家」の活躍が目立って行った時代。世界文化の中心となったアメリカ・NYへ渡る作家も現れ始めました。

続いて、絵画再評価となった1970年代後半から1995年までを第2章とし、絵画の内側を見つめなおした作家たちの表現を紹介し、美術界は、国際的な「ミニマル・アート」や「コンセプチュアル・アート」の流行、国内では「もの派」などの表現動向が現れた時代でした。やがて70年代後半から、各地の美術館、商業画廊や貸画廊が台頭し、美術作品を発表する舞台が整い始めるとともに、企業による文化戦略も後押しをして、絵画や彫刻といった既成ジャンルが再評価され始め、絵画は美術界のなかで復権を果たすこととなりました。そのような絵画復権の動きの中には、大都市を離れ地域に根差しながら、特に絵画の純粋化を意図するフォーマリズムに依って立つことを志向した、一群の作家たちの活動が見られます。

戦後80年を迎える2025年、本展で戦後50年を振り返ってみましょう。

### 3 大画面の迫力ある作品を鑑賞

本展で展示される作品は、大画面の抽象画がメインとなります。第1章では、終戦直後の若い作家のエネルギー溢れる作品と、アメリカへ渡った作家たちの模索の成果をご紹介します。草間彌生の貴重な渡米期のネットペインティングも出品されます。第2章では、絵画制作が滞った70年代を経て、再評価を果たした絵画作品が並びます。絵画の復権の中心的存在である辰野登恵子や根岸芳郎らの、大画面の絵画に包まれ、没入する絵画体験はいかがでしょうか？

## ▶ 展覧会概要 「信州から考える 絵画表現の50年」

- 【会 期】 2025年2月1日（土）～ 4月6日（日）  
【会 場】 長野県立美術館 展示室1・2・3  
【開館時間】 9:00～17:00（展示室入場は16:30まで）  
【休館日】 水曜日  
【主 催】 長野県、長野県立美術館  
【共 催】 長野県教育委員会  
【後 援】 長野市、長野市教育委員会、長野商工会議所、善光寺、長野県芸術文化協会、  
長野県美術教育研究会、（公財）八十二文化財団、（公財）ながの観光コンベンションビューロー、  
JR 東日本 長野支社、信濃毎日新聞、NHK 長野放送局、SBC 信越放送、NBS 長野放送、  
TSB テレビ信州、abn 長野朝日放送、FM 長野、INC 長野ケーブルテレビ  
【助 成】 公益財団法人三菱 UFJ 信託地域文化財団  
【観覧料】 一般1,000（900）円、大学生及び75歳以上 800（700）円、高校生以下または18歳未満無料  
コレクション展 [本館・東山魁夷館] との共通料金：一般1,500円、大学生及び75歳以上1,100円  
※（ ）内は20名以上の団体料金。  
※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方と付き添いの方1名は無料。  
※大学生および75歳以上の方は身分が確認できるものをご提示ください。  
※割引の併用不可



池田満寿夫《真昼の人々》1955年 長野県立美術館

## ▶ 関連イベント

### 【アーティスト・トーク】

会場：長野県立美術館 本館3F レセプションルーム ※参加無料、当日先着順（40名）

- ① 小山利枝子・丸田恭子 日時：2月9日（日）13:30～15:00  
② 根岸芳郎 日時：2月16日（日）13:30～14:30  
③ 高見澤文雄・宮坂了作 日時：3月1日（土）13:30～15:00  
④ 母袋俊也 日時：3月9日（日）13:30～14:30

### 【学芸員によるギャラリートーク】

日時：2月23日（日）14:00～15:00 ※参加無料（要観覧券）

会場：長野県立美術館 展示室1・2・3

### 【「みる」を考える つたえる・つながる筆談鑑賞】

案内人：小笠原新也（耳の聞こえない鑑賞案内人）

日時：2月22日（土）13:30～16:00頃 \*左記時間に変更となりました。 ※参加無料、事前予約制

会場：長野県立美術館 本館3F レセプションルーム、展示室1・2・3

#### ■ 報道関係のお問い合わせ

長野県立美術館 広報・マーケティング室

〒380-0801 長野市箱清水1-4-4（善光寺東隣）

TEL：026-232-0052 FAX：026-232-0050 E-mail：nam-pr@naganobunka.or.jp

長野県立美術館 行 メール：[nam-pr@naganobunka.or.jp](mailto:nam-pr@naganobunka.or.jp) FAX：026-232-0050

## 広報用画像申込書

### 「信州から考える 絵画表現の50年」展

会期：2025年2月1日（土）～4月6日（日）

■本展覧会の広報用写真を用意しております。ご希望の写真の左欄に○をつけて、メールまたはファックスにてお申し込みください。写真はデータにてお送りします。

○をつけてく ださい	番号	画像名
	①	辰野登恵子《WORK 82-P-35》1982年 長野県立美術館
	②	松澤宥《プサイの意味—ハイゼンベルクの宇宙方程式に寄せて》1960年 長野県立美術館
	③	小松良和《Land scape'84 気流の音》1984年 個人蔵（長野県立美術館寄託）
	④	藤松博《花火と娘》1953年 東京都現代美術館
	⑤	根岸芳郎《99-11-7》1999年 長野県立美術館
	⑥	丸田恭子《マイナスの質量》1995年 府中市美術館
	⑦	池田満寿夫《真昼の人々》1955年 長野県立美術館
	⑧	小山利枝子《光・誕生》1993年 長野県立美術館
	⑨	堀内康司《風景の中の静物》1954年 松本市美術館

#### ●貴社についてお知らせください

 貴社名  / 媒体名（雑誌、番組名等）

 ご担当者名  / 所属部署

 ご住所〒 

 電話  / FAX

 E-mail 

ご掲載・放映の予定日があればお知らせください。 月 日（ ）に発行、または放映予定

※掲載紙・誌を1部ご惠贈いただければ幸いです。

## 広報用画像

※画像提供をご希望の場合は、別紙「広報用画像申込書」に必要事項をご記入のうえ、メール又はファックスにてお申し込みください。

①



辰野登恵子《WORK 82-P-35》1982年 長野県立美術館

②



松澤有《ブサイの意味—ハイゼンベルクの宇宙方程式に寄せて》1960年 長野県立美術館

③



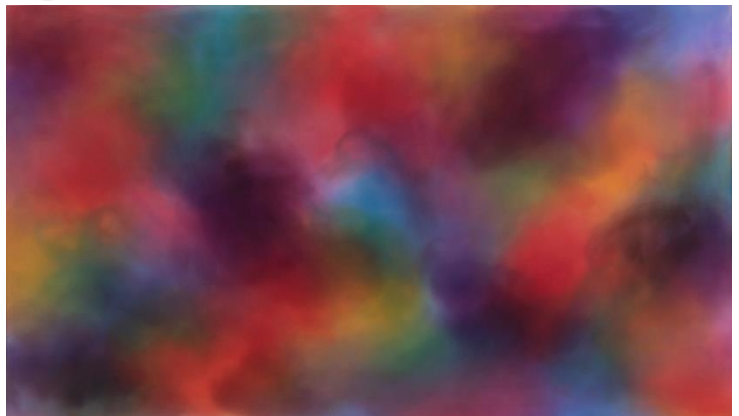
小松良和《Land scape'84 気流の音》1984年 個人蔵（長野県立美術館寄託）

④



藤松博《花火と娘》1953年 東京都現代美術館

⑤



根岸芳郎《99-11-7》1999年 長野県立美術館

⑥



丸田恭子《マイナスの質量》1995年 府中市美術館

⑦



池田満寿夫《真昼の人々》1955年 長野県立美術館

⑧



小山利枝子《光・誕生》1993年 長野県立美術館

⑨



堀内康司《風景の中の静物》1954年 松本市美術館